文政 官武通紀 五

標示
巻五

薩州始末一
雑集

リ 5
6419
4

門 95
號 6419
卷 4

早稲田大學圖書館
昭25.6.5
購入

伊達家
觀蘭閣
圖書之

官武通紀卷六

目次

薩別始末一

第一

一 公義日恢主長坂落峯建白抜抄

第二

一 江戸書簡抄

第三

一 探索書

第四

伊達家
觀蘭閣
圖書之

一風説

第八

一同断

第六

一清津開港義ニ付実又ハ合稟ニ付格別ニ
ニ取扱ヒ方ニ付而且和泉与改名ニ付義ニ付指
出ニ書附写

第七

一同断ニ親子ニ情誼至正ニ付実形承糺
ニ付右後ニ取扱ニ付而ハ文義ニ付ニ指出ニ書附

写

第八

一同断ニ付実形承糺ニ付右後ニ系家ニ長
ニ國役ニ付而取計文義ニ付ニ指出ニ書附写

第九

一清津和泉ニ取扱ニ義ニ付ニ家老等ニ為
ニ書附写

第十

一清津和泉布告ニ書附写

第十一

一同形　第十二

一　口家朱文勢上京一件ニ付探索書写

附

一　近衛様ヨリ使者ニ指出シ付右ヨリ使者ヨリ

仏合ヨリ頼之書写

一　関東ヨリ和宮様ヲ奉理ニヨリ申上

一　朝一文ニ付巧ヲ奏ス　天朝ニ

伺危弱減君ニ為ニ[illegible]ヲ非

皇國復古ニヨリ大業ニ為ニ[illegible]家ニ付

近衛様ヨリ指出シヨリ建白書写

一　右一條ニ付乍御様ヨリ仏様ヨリ足軽書写

第十二

一　風説

第十二ヨリ

一　同形

第十六

一　播州護書間抄

第十六

一　古州護書間写

第十七

一 摂津和泉両国宮掌等ヨリ摂津掌等ヨリ出ス所ノ書附写

第十八

一 摂津和泉両国宮掌等ヨリ摂解ヨリ老中宛ノ恐悦ノ義ヲ申聞候ニ付 御所指出ス

建白書写

第十九

一 京師書簡抄

第二十

一 風説

第二十一

一 同影

第二十二

一 京師書簡抄

第二十三

一 同影

第二十四

一 同影

第二十五

一同影

附

廣幡卿用人宅利泰佑書簡写

第二十六

一江戸書簡抄

第二十七

一江州書簡抄

第二十八

一京師書簡抄

第二十九

一探索書

一雜集

第一

一長崎書簡抄

第二

一風説

第三

一同影

第四

一同影　第五
一同影　第六
一京師書簡抄　第七
一風説　第八
一京師書簡抄　第九
一大阪書簡抄　第十
一風説　第十一
一京師書簡抄　第十二
一探索書

官武通紀卷之

藩制始末一

第一

公武合体之長恢蒼峯建白書抜粋

一 先年去夷以来列国所経御得模様右異船に付今應
去夏以来諸藩之去就に付いて之仕家と一体御安政
元寅之年迄之日限出之仕今間之八分年之間出之書来
在来之通天下人心揺揺頗礼之極と及ひ以ての恐入奉
申候甚子細之寅之年以来 皇国夫様より日通信
右賊天下貿易日許容之 御対に始末寅之て天下頗礼之

暮開港ヨリ始テ恐キ事無キ様ニ致シ度ト
常薩州家ヨリ内々ニテ拙者ニ自國ヲモ甚古様
ニ相極メ家来小松帯刀ヲ使ニ者ニ遣シ新渡新浮加列
金源様列無序奥列仏蘭西ヲ総銃ヲ以テ防ト所人先ヲ
利国ヲ以テ門口内ニ交易ヲ致シ其上ニ文人ヲ薩州家ヲ
拙者ヲ交紙前寺様同列山形ニ日勤役中加列所人ヲ及訴訟
ヲ有度数日停止ニ相成ル文ヲ薩州家法服ニ品第四
与戸ヲ家風ヲ方年 短年ニ無ク書キヲ見ル所前書ヲ
様ニ様ニ反人紙前ヲ様ニ日年ヲ以テ其振ヲ同人様
ヲ選候ニ相成ル物仏蘭西家来ヲ同所ヲ新浮所人反人ヲ様

概紙ニ相成ル英國ヲ相源薩州家宿言ヲ方用ル様ヲ
有則家ニ子英国浦賀入港致シ居ル全ク 如銀ヲ意
寄ヲ様密仕ル家ヲ仕ル紙安英國ヲ様ヲ意ヲ
間自紙前言情長ニ仕合ヲ中ヲ又薩州家ヲ方ヲ年ヲ
様ヲ石井ヲ来ル長ヲ卯年ヲ長ヲ卯年ヲ一橋刑部様ヲ
将軍様ヲ相続ヲ様ヲ其ヲ又阿部伊勢守様ヲ反人
温恭院様ヲ御縁ヲ日形ヲ方ヲ前中納ヲ様ヲ仕合ヲ
家ヲ様ヲ様ヲ上ル 徳川家ヲ御間柄ヲ浦賀ヲ藩
中ル日事ヲ日生ル先ヲ天ヲ日一大事ヲ也恐キ事ヲ
是ヲ長ヲ藩ヲ盡ク薩州家来小松帯刀ヲ使ヲ 堀織部殿

等と奸計を企て密謀を宰相相模太郎守俊と謀り死罪に被処同姓
和泉右かり相と謀略仕る天下を簒奪に従い一揆刑部卿
権を將軍日補佐に被ー成前中將被と天下を光成に推
挙被ー申自分を人清奥守俊肥前守俊太郎重俊以上
五人を同列に定め天下を政事ー申受申又さ、將軍
家の上落を拵に拵と
勅命をしに依り三ヶ条宣旨
ゑる日月を奥州を出羽を
肥後能前を始千万と人数侵侵被ー来秋征伐旦
征夷大将軍遣　勅を罪科と為ー日敵対被ー申拵出及
也然細川忠興日有馬豊後守和泉守別沢姫上被先富と

都くさ薩州長州等と共家と容易に動揺仕る家に尤
日用に下さと家さ薩州肥前さ及中藩屋山内伯耆さ西
方戸伯耆日薩代ゑる上居内酒井小倉小笠原日仕の係小笠原
家さ別紙中に西家風呂と家淫楽に耽士風惰弱日
世日居方さ事ー さ家に忍ま西に吾藩家と
家さ別紙に御居に世日波家に上日西屋さ新家
方に事さに対朱成に二月江さ渡津和泉系家と称
京都に立ち西司代に養関に及り被西さ近藤殿に長
養関に及り被方に西家さ家米宮家藩
永井雅楽に傳養後養さ居出長後長門守殿帰国に

穂丁数二条ハ当藩ノ内諸ヲ数ヒ所々藩ノ
ヲ殿ヲ仕長ノ上ニ所ノ紙様拵何合ハ要用等ヲ彼ヲ藩
ニハ拵子ヲ所ニハ其郡沿道ヲ備都ヲ伝藩ヲ拵見ヲ
千内穂便ヲ家ヲ豊前小倉中国ヲ東海道筋ヲ西ヲ平
穂ヲ様拵ヲ紙千国ヲ家ヲ
写ヲ之ニハ拵ヲ文ハ又ヲ太平ヲ浴リ恢潤ヲ流ヲ
ニハ其古地ヲ国ヲ風俗ヲ先ヲ段ヲ等ハ海要細ヲ
書板別紙ヲ写ヲ上ヲ紙ヲ拵ヲ

右ヲ藩別宿高為見合ヲ始ヲ先ヲ物語ヲ

第二

江戸書簡抄

一 唐人交易ヲ長崎ヲ唐ヲ唐人ヲ出ヲ流球ヲ段交易ヲ長崎ヲ
日勝ヲ遠ヲ出リ以六七ヲ沿ヲ江戸ヲ交易ヲ始ヲ
流球ヲ方拵ヲ事ヲ少ヲ安ヲ和蘭ヲ所ヲ藩ヲ
不宜ヲ多ヲ日ヲ長ヲ和蘭千先ヲ藩船ヲ中船ヲ紙後新海
ヲ交ヲ若藩ヲ吾ハ新浮ヲ接前奏買仕右ハ
先ヲ以義ヲ頭ヲ和蘭新浮ヲ行ヲ後ヲ交易ヲ
蘭船ヲ新浮ヲ遠ヲ表微ヲ和蘭藩ヲ
表微ヲ申ヲ

第三

探索書

一 清津和泉守様御交代ニ付　今帝ヲ翼補シ奉ル
開国ニ成シ難キ旨ヲ以テ拒ミ候ハヽ
右見込ノ趣内密ニ決シ難キ旨ヲ以テ
運ビ兼ネ候ハヽ遂ニ戈ヲ交ヘ
相交リ貿易ヲモ私ニ反法居ル義ヲ仕ル事ヲ
於　幕府ニ全ク日本ニ
別ル日本ヲ東西ニ変遷シ来候ハヽ後ハ
開ル日後日本ニ付物部ル右港ヲ公法ヲ交易ヲ
港別内交易儀ニ裏儀仕ル今ヲ

[illegible]

[illegible]

第四

風説

一 薩摩守家久公先年上世中[illegible]自論見[illegible]有
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]何と云ふ[illegible]なる[illegible]於て[illegible]実[illegible]確[illegible]水戸[illegible]道[illegible]
家相[illegible]高[illegible]説[illegible]然[illegible]為[illegible]繕[illegible]中[illegible]出[illegible]
流別[illegible]　天璋院様[illegible]合[illegible]又[illegible]
[illegible]格別[illegible]内[illegible]家[illegible][illegible]
[illegible]書流同氏族[illegible]庫申上[illegible]　幕府[illegible]
暴政[illegible][illegible][illegible]出府[illegible]
[illegible]有罪[illegible]再[illegible]
[illegible][illegible]甚[illegible]
[illegible]
[illegible]

暴政且聴虜[illegible]拒甚[illegible]　天朝[illegible]
叡意[illegible]背[illegible]命[illegible]盟[illegible]或[illegible]兵力
[illegible]内[illegible]
[illegible]
[illegible]

至ル志浦ハ万民ヲ撫シ如高厚ク　神祖ノ德澤
京都ニ報ヒ奉ルヲ以テ一日ヲ傍観ニ忍ビ中心ヲ道義
恵ム　幕府ヲ助ケ蹶虜ヲ遠ク徙ス　天朝ニ事ヲ安
叶事ヲ考ヘシメ　敵国又敵ハ
薩津氏ニ罪ヲ鳴ラシ吾等ヲ助ケ万民ヲ救ヒ
ヲ西国ヲ平ル事実ニ当今ノ急務ニ以テ多也

第六

薩津同藩家ロ家ヲ文ヲ分ロ者神向格別京ニ長板
ヲ没収且初ニ没ハ没ハ有ル指出ハ書付写

一薩津同藩事国政向参与ハ石別藩ヨリ精勤ハ有ル性厚ク
心得万事ハ好所ニ指出ハ日向ヲ日沙汰ヲ藩ヲ弾ヲ安文
ヲ家ヲ日中ヲ者尚安ヲ迄ヲ藩合ヲ冥ハ有ル時ハ者神
向格別京ニ没収板尚又国内ヲ者ハ一統ニ服従改事
向万端沙汰ハ藩ヲ和ヲ府ヲ藩ヲ間ヲ外ヲ事ヲ石ハ沙汰ヲ
好所ヲ指ヲ者ヲ対ヲ家ロ中ハ且同藩事ハ和ヲ者没収
叶陸ロ南ヲ一ヲ日ハ沙汰ヲ

年月日詳

右藩ヲ商ヲ者ヲ者ヲ出ヲ和ヲ知ヲ事ヲ拾ヲ家ヲ
記シテ参考ニ備フ

松平侯理事

第七

同郷日親子之情難絶踏止須臾不安形容拙
之去後日家内日々門反家業不安若出日書付
写

一
清津和泉事 先祖又故右渕宗三郎子一門蓍津出雲
舞紫子私義之和泉之實子ニ而板薩摩守舞紫子ニ
仰付御変和泉義國政向万端右副役稽勤仕候
右始方好屈之儀ニ 日内沙汰之旨迚紀伊
事取紀之實又之義ニ而ハ合点宜ニ付出対之
者共一統右服為被政事向万端被出候法事取扱
拙者反対之芳形好之儀ニ而ハ無之

親子之情於孝家難踏止須臾不安形容拙後
家内日々門反中ニ而ハ対面日々空ニ而ハ
年月不詳 松平修理亮

右前同断

一
第八
同郷対長實形容拙之儀後日系府之長日弘政向
業為反対之芳出日書付写

一
清津和泉事實又之義之儀ニ而ハ尚合点無之
踏止内情之詳之日々面対長實形容拙後ハ私家門
門反中ニ而ハ私系府之義之儀ニ而ハ政向万端取扱

藩屏対交日本対馬日傳之至言なれハ以之

正月十一日　　松平修理亮

第九

一　藩津和泉日厚板之家老等ヲ以御御

日書付写

一　和泉様日義御筋を三國政日内談中ニ且先公

日内沙汰ニ被仰之ニ付等寄之事ニ付

二ノ丸ヲ日位居ニ相ニ付尚又表向日ハ助方形並ニ

ニ御出等御厳重ニ和寄ニ相可成対事

正月

第十

一　藩津和泉國中ヲ布告之書付写

去年ノ年卯東亜高日免清ハ朱天ヲ人ハ彼礼政

各國有志相ニ相唱ハ者尊　王攘夷ヲ名ニて憤

慨激烈ニ説ハ彼ニ方ヲ交ヲ結ハ百容易企政ニハ我ニ

皆ハ当國ニ至ハ者ヲ私ニ和交書稿仕度等政ニハ

者ヲ之ニ武ニ力年意勤　五ニ志ニ感激政ニハ百ヲ右

ニ次第ニ出及ハ者ニ相民漸人短年ニ而業ニ政同言ハ

当國ニ禍害ヲ勿論　皇國一統ニ藩礼ヲ醸出ニ政ヲ

憂旅割授ニ形勢ニ応ハ卯東ニ御ハ藩ヲ居ヲ事

皇国上義を別に為候事ハ拙者も　公武に為
筋取立て被遊ハ有り難き儀国に取て拙者一切
為出交命令に従ひ用被遊ハ事ハ公武又ハ義を重
ト被遊交無之者を其筋に中出ハ下に応ハ拙者
共に被而無之ハ道理筋ハ戸沢正丹右衛門
被相来ハ被而者為安ハ為被遊度ハ義
被為被遊論其筋に者為被遊判ハ拙者
上方ハ為勤兵に拙者ハ天下国家に為尽
為何程事ハ家を遠西罪科に分ハ事

寅名判

三月十日

第十一

一　拙者ハ書反ハ中後ハ事ハ幸西に拙者ハ考ハ拙者ハ尚何世に
情態自然為稽に成ハ為得出事ハ先自然
事ハ其後尚又被熟考ハ知事意止感に拙者ハ何
類と門に応ハ義る尚至ハ勿論拙者ハ為て心痛ハ極事
に前沙汰に成ハ拙者ハ迫に成ハ出迫に成ハ再意
中後に事に為ハ方今に拙者ハ非に変事出来
に成ハ一和ハ成ハ安定来ハ
も　主殿を為ハ変ハ拙に隠ハ情に成ハ者ハ

皇国に成ハ者ハ

其志操安き者倉卒同盟に事を別て勤　王家に誠
右流に下り拾文安き事に成て面容貌英拔して慈
き者先に武士の先を百姓迄に作出す事に成
壬辰に其名を遠国に風儀を聞て流布宜敷者に士を好て
律儀に廉潔にして忠義の心を有る者に文術
研究して言行共に正実風儀を武士に第一
旦那士に下家来者に成て百姓に成て尚以
其一統事に成て右様に成て其人能く仕得て
寧ろ論に文兄又は同胞に者たりも仕得て
拾代家教誡に成て家を治事

寅　月判

三月十日

第十二

一　日家来多勢上京一件に成て　探索書写
所近藤拾右衛門使者に成て右に成合
日後言書写
一　関東に　和宮様を受理に成て帰り是一朝
一夕に奸巧に成て寒に　天朝に　伺為
慌狼に急に成て此を老非　皇国後に
日大業に為を成に成て近藤拾右衛門
日建白書写

一右一條ハ近衛様ヨリ御内書写

一薩州ヨリ人数多勢上京一件ニ事ハ記ス右ハ眼目ニ記ス十一月

廿日薩州ヨリ近衛様ヘ御内書ヲ以薩州ヘ御礼ニ為ヲ使者

ヨリ家来ヲ以薩州ヘ薩州ヨリ建白書

使者ヨリ家来ヲ以薩州ヘ薩州ヨリ建白書

右ニ付大略ハ別紙ニ眼目ヲ記ス

別紙

ヨリ使者ヨリ御内書

一今般中山卿ヲ以御内情ヲ伺ハ変動ヲ以ハ御上京

不容易御内賜且前ヲ右府様ヘ近衛様ヘ道翠様ヘ内書ヲ以

順逆ヲ御分ケ寄ニ武門ニ寄加ハラルヘキ思召ハ御ニ其方

使者ヲ以ヲ以ヲ為ニ為ニ右ニ被ニ申合ヲ被ニ為ニ

右ヲ以ヲ添紙一条ヲ以ヲ以ヲ礼ニ申上ル

ヨリ建白書写

一天朝ニ御危殆寄ニ憤慨ニ急ヲ以為ニ

ヨリ以ヲ以中山卿詳細ニ右ヲ以ヲ

ヲ和宮様ヲ御ヲ以ヲ

御比ヲ以ヲ以ヲ

ニ事情熟察被ニ御ニ

ヲ天下ニ人心ヲ以為ヲ明ル

天朝ヲ重ン

幕府

背きい事判然たる形勢既に一昨年上已一挙の如き実人
殺害水腐に混乱甚敷浪人奏走おこ流れ出る事と
百出際一家に疾病発れと以て事十分後悔察君の如き長
寿こ形と濫り内に深閉落涙を憐きい家と業者を生じ
苟且偷安に情を以て天下國家に傾覆後と少も言こ出ず常利
を考る意況を見る明日と事を考ふ(ママ)今日を
全きと後経営に拘まて右具眼に者に論じ始を彼と
長と短り事を為に者と云て危殆を少しも
て下国家と云と自分と用いに元言と句と成用いに得
家興復に一家に業趣事疑に始た和漢古今変世数り

て國を孔を賊臣と縱跡を一撥なる法を以て彼を考
る 和宮様を奉理に下りは生一組一多と奸巧を
こ口下向に為に上を堂付こ物を求て 勅言を賜を
面目を改んさの考を施事に成る時を始こ神儒を
施ゆを経済の変計事に内論を上を論文に始こ
而謂こ秘策もまてに後出り及ぶ遷説こ主こ仮令
世説ちこて出を決んに為に時に上を為に彼先を
ちを制を文に為を家に勢に古成嗤嘲こ悔不及を
恐懼に

一 伊一挙に成り拙篤こ校論に小さい兵を動く上中

誠ニ以て國家之重事人心勿論　天朝　御安危関係之儀誠ニ容易ならぬ御事ニ付ハ御届之通危急之日何篤と熟考之為ニ将亦事日何宜ニ日留不省ニ我等ハ
ニ苟も　王室ニ対して無疑之心ハ
御大業為之安寧誠願ハ統之京地十分ニ日守護為
備り之後令非常之
聖勅ニ為之ハ成手ニ霞撤
と雖ニ拒ハ之と謂る事ハ日無基本之
必勝之利と謂り興復之疑ニ為ニ
機應変之而益出り拒ハ之事ハ我等不智無力と
御深遠図ハ無之必勝之事ハ決と謂り甚測

之為日増度内第ニ決第九之通

一　供人数百人内百連日上京可仕之事

但落切ニ之名迄ニ間合兼ハ之人間ハ又ハ
色々之御危ハ被為有之場ハ京地到着後ハ人数
ニ為ハ七組ニ拾人ニ
日人組ニ為人側役為人上下都人平均ニ
定式方側向三十人同表方十人足軽四十人大凡是
賦り常力ハ上百五十人ニ為及ハ事

一　尚他出之為二百人ニ為ハ之時守衛人数ハ組二百人ハ之事有又
為日留ハ之日組ハ百日拾人同勢小倉ハ関之出張之

事

一 但天祐乃大坂着之上則必令市ノ関之者出ル文出候
人数為後詰一人之坂且名ゝ用意候ハ無市ノ関
猶其右人数一同穏ヒ一方ハ元寄運送有之ハ
ゝ之大坂被仰出候ハ備無之事

一 人数凡上京之上組ハ一人ハ三組百八十人と申ス芝郷之者
数ハ惣之者出ル事

一 上京之上湯明家ハ番敵ハ之者建議之 御用意有之
且ハ名忍沸京守護ハ仕ル之 勅使ハ下ル之
日守護ハ今ハ備ル之非常之 聖形ハ在同関東

勅使被為出ル被之一橋公日後是誠為老公老ル
出世ハ被ル被ル之ハ之尾州長州仙台因州ハ別ル
勅命ハ市ル被之今被 徳川家ハ之 話之ハ
者各談合及 皇國之者志ハ之ハ可抽忠義
第一道 勅之篠市ハ国家之奸賊抱改革義之
可加諸代合ル 御ハ左ハ有志之者議合従事 勅
王義挙ハ市義之ハ流ル勢ハ無及ル 幕役
之戦慄之 勅意之者之者ハ皆攻方為一石執之
討ル長藩之外ハ有諸侯人家悔恥之義之事
ル之義之無ル勢之ハ御之ハ何之為於関東被ル改

[illegible]

一 勅命ニ付テハ則関白ノ儀ハ皇城ヲ府ニ帰職青蓮院宮様
ヲ幽因ニ付テ解キ万機ノ事ハ皇方ノ決判ニ付ク様
仰出ル事ハ

一 右ノ人数上京守護仕ル上ハ要塞ノ場所ニ領ケ公 儀
ヲ事預ル

一 尚対様ノ議論モ其時期ニ隙ニ上ル 徳川家ヲ持ル
大義ヲ唱ル正ク書ニテ公儀ヲ揚ケ干戈用ル
論モ其ニ付ル夫ニ前尾ニ諸ル基礎問ニ寄竟
罪ニ 幕府ニ対シ真実ニ 皇国復古ニ赤心ニ

ハ其方ニ者ニ成ル事ニ乗ル非干戈ヲ用ル事ハ傍国仰徹
統出来ニ良策ニ立ル勿論先ニ 徳川家ヲ扶助
公武ヲ合体ニ 敵面ニ先ニ志ニ至ル伺ル
右ヲ総言ニ書ル事ハ為候不得止事ノ家出ル
不及兵非義ニ事ニ自事ハ
右ニ通概略ニ定策ヲ自巨細ニ同ル万箇治定ニ至ル迄
ハ夫ニ朝ハ日限ヲ定ル交伺ヲ大河ニ流ル伺ル人事ヲ
禁ル再疑ニ対様ニ一挙ニ事ニ為ル事ハ

ヲ在後写

一 極密ニ内ル誠ニ乗ル実ニ肝要尚紙ニ義皇方ル

後ゝ為ニ上ニ成ル被仰付ル一 宮國ゝ安堵ゝ相ル義
實ニ悲歎ニ堪ヘ不ル 上ゝも御意ニ深く心痛仕
事有中出家ゝ十分ゝ好ニ成ル 仰出ニ成ル旨ニ付
賊党ゝ場ゝ事有ル也 上ゝ江戸 仰出ニ成ル旨ニ付
右納ゝ西親所ゝ三條ゝ滅亡ゝ仰付ル旨ニ成ル
所賊ゝ人体出ル ゝ相極中ゝ右納ゝ西親所ゝ三條ゝ
敵ゝ回ル 所ゝ成ル ゝ成ル ゝ成ル 義ゝ
痛ゝ心ゝ成ル 相ゝ関東ゝ仰ゝ 間ゝ
人ゝ場ゝ ゝ成ル 関白ゝ ゝ成ル
成ル ゝ痛ゝ心ゝ 成ル 仰ゝ

等有志ゝ活躍 幕府ゝ上書ゝ成ル且関老ゝ
活躍ゝ 敵ゝ回ル事ゝ成ル義ゝ
ゝ角ゝ 勅使ゝ出ル ゝ成ル
長州ゝ ゝ成ル 敵ゝ成ル
長州ゝ 義ゝ賊ゝ
右ゝ成ル ゝ成ル
事ゝ ゝ成ル
成ル

第十三

風説

一薩州ヨリ寸家十二万トルラル、蒸出シ一西洋ヨリ日拾間余ニ
蒸気船買入ル由ニ付右船国許ヨリ差下シ候ハヾ
同じく為買入ニ参り申ス事ニ付ヨリ風説ニ付変異有
御座候

但右ハ清津和泉上京ニ付ニ人数等為御相談為
御見合中ニ

一松平修理大夫殿家来若槻藤次郎ハ
久留米藤右衛門豊後岡藩中川侯等ハ彼流浪者ニ付初旬上京
ヲ中ス右流浪者ハ来二月ニ搭乗ヲ切合
取計ヲ為ス之ヲ略ス右藤次郎ハ来月二日ヲ

同藩交代ニ付一同帰国ヲ願ヒ申ス事ニ付
家ヲ出発ス其儀ハ出発ス其儀ハ出発ス
人ハ武士ハ藩庭ニ武士ハ
長藩庭合ニ於人数ハ同家ハ同志ニ有ル者ハ
若ハ長藩士ニ迫ル日ハ十人ハ御国ニ
都老其同藩ニ有ル人数ハ
当時中ニ候右藩ヨリ出奔者ハ
中ニ有ル事

一薩州浪士二百五十人余長州ノ関ヲ海ヲ渡ル其後又
三百人程海ヲ渡ル風説ヲ又一説ニ下ノ関ヲ海ヲ渡ル

石右衛門と風説を聞き、六百人を先に二百人を追捕
一申風説を賣者有り兼ね
一藩別廣日賣文日一門日家老清津和泉伯を始め
得た出府藩足し者日屋敷に藩士二十人出張
拘、事有り右衛門と日逆に成家臣を得た者屋敷
敷に変右二十人捕出藩に為る定る右衛門を
藩に申風説を
一藩別肥後に高部方〜清内〜清論有出
者ら後風説日賣見せ金〜賣説る右衛〜家金〜賣
〜右中〜方賣説〜藩江日風説〜藩中は

第十四

同新

一長州藩山田又助者若者命を受長門下の家る
和泉屋に好遇仕於藩に見を頼若心設〜伯家
右銀〜事体　密謀有命〜〜〜〜尚対密者同東
所五弾〜機〜後出右衛門逆先藩七日当藩に出得
二〜七変に他に右譲流文尽力〜仕者中〜右泉別藩
〜〜変に先後拘右事に〜〜〜〜〜〜〜〜謀
と合せ　藩面と〜事体者日足若右藩に
一泉別藩蔦屋船に宝津〜日上京〜申右蔦屋船

鹿児島より大坂迄二百拾六里程より仕来り出来申候

二月廿二日

第十四

播州淡路書簡抄

一

播州より家老和泉淡路二人六月播州室津より船にて
淡路へ十二人滞船に相成候中略にて私共義も
皇國御為者と存候ゆえ老公より家来拾人
と云ふ事にて御乗船被仰付候
得共先陣と成候事を地ち撰戦に仕候和泉淡路
と云ふ者共も右拾人一拾者右拾人に立まして此度
拾者に御属被仰合戦に成候に付右拾人
其後七日目に三人に仕候馬前にて合戦に成候に付右
拾人の軍に之拾者に御属被仰遣候中者より
況能拾者右拾人に右之事を知らせ日國に立帰り百人
に右勤まし御撰に右拾人に帰陣に成
右淡人共も更に一二七日ごと遣迎にて立に成候中に右
拾人も有之に能集仕居に中和泉淡路出発等とも中論
に不遣為立に拾人に右拾人に帰
更に出府に成候百姓に帰に成候中略
右様に書簡百姓に変に成候人同様に成

[illegible]

第十六

古別蔵書簡写

一 以前永別蔵 [illegible] 日上京之家 天朝 幕府之
為め藩国之力を以て流刑日間旋之[illegible]十二百人
藩士抵抗帰 義右原師 [illegible] 為右 敵亜之[illegible]
敵亜之右略之儀 幕府之番次遣 勅命
義を寛大 浮仁為れ浮宥恕を為れ懲罰等
之明を以て攘夷於[illegible]廉を為を於[illegible]

[illegible] 徳川家之[illegible] 浮仁助[illegible]
敵亜之由
右之通る日更右同[illegible]為[illegible]
論 敵亜之変[illegible]遣[illegible]畏[illegible]中之則右之敵
永別蔵日中上同十六百銀永別蔵伝是出之[illegible]
日為第一旦日邦日[illegible]人日[illegible]已ノ刻近[illegible]敵日為右日永敵
右敵[illegible]中山師正親町三條師岩倉師日集集ら 敵亜
之敵 [illegible]
中ら永別蔵日[illegible]亜之[illegible]尋之
攘夷之義之免角内之[illegible]
敵亜之[illegible]一之事畏[illegible]

一橋刑部卿殿ハ將軍家ニ援見ニ〻其他尾張藩ハ
[illegible]用ニ備ヘ寇罪ハ禁錮或ハ退職ハ伺ヒ動
[illegible]ニ志ヲ立テ方ヲ元ニ復シ[illegible]ハ天朝ニ迫
リ職ヲ其間ノ養[illegible]輕重ニ注意ノ意ヲ罪狀ハ或ハ封ヲ削リ
其他ハ　天顔ヲ[illegible]畿内ニ地ニ親王方ヲ立ル　天朝
[illegible]ニ[illegible]後ニ逆徒　天朝ハ與ル事ニ[illegible]
備ヲ立ル後攘夷ニ策ニ[illegible]　敕命ヲ
[illegible]ハ[illegible]ヲ[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]尾張藩
ヲ和後ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]
内孔ヲ攘ニ[illegible]

等ニ[illegible]　敕命ニ[illegible]ニ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]　敕命ニ[illegible]
[illegible]　敕命ニ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]ニ

西郷隆盛之書簡ヲ奉呈ス、内及奏　聞ニ交　ニ上表
毋数ニ　石谷不識　伊藤海老ヶ瀬ニ使ヲ送ル　形右帰ノ衆
議ヲ以　伊藤ヲ海老ヶ瀬ニ有業　伊且清水ヲ家ヲ
以　伊藤ハ他ノ志士ト諸国浪士ノ数多浴中ニ入ル居ル
報有ル第一九州等ニ及ル　ヲ経ル間ノ暫ク間ノ居ル海
ニ汽船来居ル　伊藤ハ他ノ志士ノ数ヲ医殿ヲ伝
伊見ヲ日ノ帰翌十七日伊見ヲ門掛ル七ツ時ノ前京ニ出ル
又　徳重家ヲ家ヲ永別長ヲ建白ニ通　小英ノ
西成ノ世間老ヲ呼ビ出シ　勅書ヲ同人ヲ宿ル西成ヲ
ヲ十七日関東ヲ　伊藤ハ馬ヲ入　幕府遣　勅書ニ

干支ヲ動ヲ日歌義ヲ其用ニヲ流ヲ出ル居ル風ヲ左ヲ次第
日國元ヲ多人数浪士ヲ引ル　西成ハ中薩藩士有志ヲ
者ヲ永別長ヲ借ヲ外殿数伊見ヲ右衛ヲ出ル居ル始ル
他諸藩同志ヲ者ヲ方ニ永別長関東ヲ下リ　ニ名ヲ
聊ヲ事ヲ浪ヲ名ヲ　ヲ機会ヲ失ル居ル　ニ時ヲ
名ヲ出ル　永別長ニ命ヲ用機ニ投　同志ヲ者倶ニ
ヲ記ヲ合ヲ中ヲ九州永別長前件ヲ通ヲ名熟ヲ
ニ付ル右藩士ヲ書ヲ諸藩ヲ者ヲ大ニ応ル時ヲ海ヲ
且薩藩役ヲ妾ヲ義ヲ拘ル制居ル

月

第十七

為津和泉国之沢近衛振等下ヶ上ル之儀ニ

書附写

一十六日為津殿近衛殿ヶ口ヶ蔵ヶ之中山殿ヶ我殿
二條殿ヶ同席ニ成別段建白ヶ有ヶ之ヶ仰ヶ上ル之儀事
ニ付ヶ内閣封紙成ル有ヶ之ヶ仰ヶ上ル之儀事

一第一ニ天潢院ニ成ル仰ヶ出ル之儀ヶ畏ル近衛殿ヶ妹ヶ女
ヶ之事ヶ為ル一天万乗ヶ之至尊ニ ヶ妹ヶ女ヶ之儀
家裏ヶ加ヶ皆ヶ仰ヶ出ヶ中ヶ上ヶ振ヶ之院ヶ玄春 ヶ為ヶ振ヶ
置方ヶ内府ヶ為ヶ後憑ヶ若ヶ下ヶ仰ヶ中ヶ之ヶ振ヶ最ヶ尊ヶ

和宮振ヶ為ヶ之ヶ人ヶ仰ヶ出ヶ之ヶ儀ヶ同ヶ実ヶ以ヶ寝ヶ食ヶ毎ヶ
夜ヶ恐懼ヶ苦痛ヶ方ヶ付ヶ仰ヶ検ヶ之ヶ向ヶ後ヶ為ヶ法ヶ家ヶ
事ヶ付ヶ御ヶ係ヶ後ヶ御ヶ神ヶ罪ヶ実ヶ恐ヶ入ヶ奉ヶ存ヶ近ヶ衛ヶ殿ヶ
ヶ及ヶ上ヶ拙ヶ者ヶ方ヶ口ヶ迄ヶ一ヶ家ヶ事ヶ

一第二ニ近衛殿ヶ之ヶ子ヶ上ヶ家ヶ之ヶ儀ヶ恐ヶ之ヶ為ヶ活ヶ長ヶ之ヶ儀ヶ不ヶ宜ヶ
ヶ為ヶ上ヶ下ヶ系ヶ勤ヶ之ヶ為ヶ費ヶ莫ヶ大ヶ御ヶ出ヶ費ヶ国ヶ元ヶ大ヶ船ヶ運ヶ賃ヶ数ヶ
ヶ家ヶ臣ヶ下ヶ数ヶ千ヶ御ヶ取ヶ出ヶ付ヶ乃ヶ世ヶ上ヶ之ヶ付ヶ仰ヶ付ヶ将ヶ法ヶ等ヶ
忽ヶ滅ヶ亡ヶ及ヶ子ヶ孫ヶ絶ヶ及ヶ之ヶ儀ヶ之ヶ向ヶ後ヶ下ヶ家ヶ家ヶ
彩ヶ家ヶ彩ヶ家ヶ下ヶ方ヶ之ヶ儀ヶ厚ヶ之ヶ為ヶ

尚ヶ後ヶ之ヶ儀ヶ懇ヶ願ヶ之ヶ人ヶ為ヶ立ヶ家ヶ同ヶ様ヶ仕ヶ度ヶ一ヶ天ヶ朝ヶ

勅ヶ許ヶ之ヶ儀ヶ

守護仕　厳重ニ安堵ニ成ル　井伊先例
もとゝ事ニ仰付ル　勅許ニ蒙リ候ヘ共
一家代々ニ忠勤為致ル事
一
第二ニ和泉守ニ成ル　浜松ニ御城
仕ル　西丸守ニ成ル　他家ニ成ル　清津領内ニ新田
浜松仕ル　守ニ成ル　御城
勅許ニ蒙ル事　石ニ成ル
領内ニ新田　新田仕ル　命ニ成ル　百姓
北ニ成ル　新田ニ成ル　農事ニ成ル
直ニ百姓ニ直接ニ　徴集使ヒ　百姓ニ各々
為ル　急ニ　飢饉ニ成ル　前文ニ通ル　御恩ニ報

勅許ニ蒙リ候事
右ニ条件ニ成ル　同日清津ニ
家ニ使ヒ　若和ニ　振ル　同日
ニ市場ニ　清津領内　寄ル
第十八
清津和泉守　栗田宮振　等ニ
等ニ　清津ニ家ニ　領ニ　市場ニ
建白書写
一　岡老公世ニ和守ニ　成ル　成ル

一 栗田宮御警固大岡隼人正殿警固大岡隼人正殿
為名代ニ被遣ニ付
一 関東ニ於テ一橋殿尾張前中納言殿紀州前中将殿右ノ
右ノ方ニ和睦ニ相成
一 九條公並西園寺酒井若狭守迎ニ西園寺
下賜ニ付
右ノ罪ニ為ニ金ニ百枚ニ付ニ風評且
以ニ紙幾多ニ而ニ流元酒屋ニ居ル者ニ被ニ
以ニ方ニ之ニ限ニ元ニ帰ニ居ル者ニ
而ニ無ニ之ニ居ル者ニ

右之罪ニ為ニ金ニ百枚ニ付ニ風評且
以ニ紙幾多ニ而ニ流元酒屋ニ居ル者ニ被ニ
以ニ方ニ之ニ限ニ元ニ帰ニ居ル者ニ
而ニ無ニ之ニ居ル者ニ

一 関東ニ於テ安藤対馬守ニ遣ス 作対馬守
人名法数変化ニ基ク可ニ成事ニ
一 日蓮解ニ一橋殿ニ後見被ニ成前中将殿ニ右花職ニ為ニ任ス
ニ付ニ日蓮ニ等ニ和人名一和ニ基ク可ニ成事ニ
一 前件ニ付ニ 作殿ニ対面ニ 朝廷ニ
御威勢ニ為ニ成ニ有ニ之ニ有司ニ者ニ迷ニ用ニ為ニ
事ニ無ニ一二ニ大名ニ日用 勅ニ諚ニ局ニ屈ニ
作対ニ為ニ成ニ日ニ

一 誠前ニ職ニ上京ニ 作対 朝廷ニ

道を以て邪正を弁明白に正威に拠る者　仰ぎ願はくは
事実なり
一　公武に合体上下一致して人心を西亜の説に惑はず永
世疫疫流行制を定　皇威益々輝き万民安
堵なり
右の所論は皆国家の為に恐縮敬畏の
情に堪へず世態を観察仕り愚案仕り候段人心
不和に極窮に出候て東人を西朝に奉り万民
疑討に陥り　仰ぎ願はくは安拙の旨を以て文華
御　敬亜の風に帰し国家到底

敬亜を未補作　公武に合体人心一和に道を定め威勢
日に盛に万民安堵に帰し言上恐惶再拝
文久成月　岩倉　和泉

第十九

京師書簡抄

一　京師表五十有餘万人変に驚き万民騒擾和泉波
万人数を大坂表に来り上京を願い奉り
案内に入る色々聞き始め諸藩を集め
日夜を分ち帰に甚だ細を尽す第一奸民唱を
勅旨を以て外国人を掃攘す也右和泉波

國侍より大坂と兵乱起る二日ニて七日川筋船に長サ四
十間計に成る人数大坂に居る分一万ばかり計伏見表に
五六万京都に千人ばかり中荷物を俵山に置候と長持
人に成る分無茂に成る日に成る言葉為覚仕候
也は西国代官に恐怖に船ばかり十百物を異延を為
而堅申也其外人数西国筋長州迄に大勢罷上京れ
候者五六百人に成る其内筋別迄に大勢罷上京れ
成る日也に日吉場に人数七千京に居る
日一面に成る也又日人数七千
日也は大番頭に恐怖仕候方に為一通に成る也西国筋

文案　西之丸形勢に恐怖に京都に船
中子供等に仕候方に為退散仕候也に成る長崎動変
大変に京に市中商買に成る物価
に高直に成る也に仕候方に為
場に成る人数に成る上京に成る内に成る
中に為変に成る
大坂に京師に集る方に中に書簡に成る文面
為見に仕候に成る同腹仕候に成る
近に為探索仕候に成る全く大坂に
風俗に之に変る長州筋に
公武に命に仕候

見世に出候様に被仰付候事　浪人に参候様にと被仰
渡候事　参候者に者　参候者に者
可成丈に不苦様に被仰渡等に相成候様に
被仰付　参候者に者　浪人
結構に被仰付　候者に者　其事に疑敷
大勢に付　浪人同様に不申候　参候
者の疑惑深く口論に相成候　子に者
全く右様に相成候　同様に
事に者　別同様に

第二十

風説

一　藩津和泉守関白殿　其外に者　西園寺殿
義若狭守殿　京地藩別家留守居に伺出に相成
者に藩別家留守居に家再変関係に
用向に　清家に義に者　祖母に　藩内命代に
家に　清国仲に右物に家に関東に　命に
換最中　命に被り　其事に付　罪物に藩別家
此に　義に付　公命に
日に

右風説に藩津和泉関白殿等に為に家臣代

元亨年間に出来し事なれば彼是の説を和風説と云ふ西園寺元
亨出来の事なれば彼是の説を書籍に考へ今の説を何とも
未だ確定仕難く候ゆえ説を記置候考に備へ置候

第二十一

同形

一 玄ゑ十六番蒸気船の義蒸気船の儀に付幕府より人数引率大坂
到着の儀に付幕府より人数書面掛合
大坂表一万石の人数千四百人程京都に差出
者の人数十五人程十六日迄に京都に集り夜
分出船仕大坂に持込候日々京都に出張十六番

新たに西園寺殿家臣に被仰付候
通達に出張致し候ゆえ様子を探
何とも者義致し難く蒸気船の儀
実説実に論説に出張致し候
動揺を

第二十二

京師書簡抄

一 当月十五日休暇日に付京都西園寺殿邸
に参上致し候ゆえ内々の風説
混雑する様子に接し抱又は甲冑等
実事に同夜の御沙汰晩七時に

之儀先程相分申候由申出候間十六日未明ニ和泉及近藤
ヲ以ハ分間自拵傳養元様養元中山西親所三條
野宮人世花丸丹等諸卿ヲ系　内ニ右ハ元様ニ拵
相尋得中山ヲ右拵ニ決ス夜ニ入ハ自拵ハ帰り
右ハ中山西親所三條等近藤拵ヲ以ハ蒙合ニ相成候人
ヲ内決ス　吉田氏和泉及近藤拵ヲ以ハ川原伝是ヲ
帰り　右ハ之事

第二十三

同新

一　廿七日薩州ヲ家老ヲ以ハ為之候程之処

一　寅又ヲ以ハ方ヲ相聞ハ諸藩和泉ヲ
方ヲ以ハ同勢ヲ六百人ヲ右ハ伝是ヲ屋敷ヲ若年寄
右同勢ヲ百士ヲ拾人ヲ拵ヲ同西出立伝是ヲ
所ヲ毎ハ分ヲ不寄ヲ相成何方ヲ家ヲ
ヲ薩州ヲ家ヲ用ヲ京都屋敷ヲ
相及ヲ拵ヲ性西等ヲ屋敷ヲ当地ヲ関西
立ハ後　ヲ下ヲ達等ヲ私ヲ前等ハ義ヲ
ヲ屋敷ヲ所ヲ拵ヲ勢ヲ中ヲ新ヲ達ヲ数出立ヲ
ヲ改ハ伝是ヲ申ヲ屋ヲ相成ヲ同西ヲ同代
ヲ通達ヲ所ハ事ヲ相帰ハ又一説ヲ同西伝是ヲ等

稲荷社神事ニ付若輩ニ花火打上ケ二條ハ見ル
日右ノ方ニ仮掛茶屋ハ同夜ハ同所ニ花火
鉦太鼓等ニ付組ヲ力等何モ二條 御城下お話
替裏守護ニ日清家ハ人数多モ 御所ヲ
必事ノ儀不ル何モ武器類ニ付ル二條
御城向ハ所家ハ何ハ変事ニ付ル
先ハ不ル要ハ向ニ付ル 御活動ハ
市見物ノ儀同十六日朝安何事モ人数ハ揚ル
中ニ付ル

一 同十六日朝阪滝沢和泉守様ハ百人ハ

日京代元ハ五五ニ滝沢様ハ人医出張ノ景
数内ニ家ニ数ハ何ハ日ハ同十七日未明出立京都ハ
夜後ニ滝沢ハ先ハ者ハ
ニ中ハ諸荷物等ハ人数五三百人除ル
西ハ屋敷ハ内ハ向ハ所ハ宿ニ者ハ数ハ
何ハ大坂ハ沢ハ者ハ数ハ事ハ
第二十日

同断

一 滝川ニ滝沢様ハ十六日朝ニ京代屋敷ハ出張ル
別ハ下ハ向ハ二中入ル数ハ人ハ

日清ニ出張ニ付家老ヨリ宿老ヨリ
出張ニ付人口減少ニ付是ニ引家ニ出張中ハ代同勢百人位
徒士習ヒ流儀之ヲ家中同流ヲ若一大小高揚ス
一騎當千ニ有様勇ニ敵義ニ臨ム

第二十四

同形

附 廣幡卿ヨリ用人毛利采女佐書簡写

一今般薩州家ヨリ役人清津和泉ヨリ方ニ出会人数
ヲ上京ニ上様養元ヲ若ヲ上ニ役若同人数何様ヲ役
ヲ立ヲ若ヲ立ヲ若ヲ立ヲ若ヲ死仕ル廣幡様用

人毛利采女佐家ヨリ別紙ニ通ヲ使ヲ若ヲ出張人共
ヲ出ヲ代ヲ役ヲ役ヲ自若ヲ清ヲ若ヲ若ヲ同所
ヲ役ヲ自若ヲ新規ニ接若所ヲ出建屋敷ヲ自
ヲ若ヲ屋敷ヲ新ニ拵不等ヲ屋敷ヲ屋敷ヲ
ヲ若ヲ屋敷ヲ自敵ヲ同様ヲ若ヲ清ヲ屋敷ヲ
ヲ今ヲ得何ヲ若ヲ自ヲ屋敷ヲ役ヲ宜候ヲ若ヲ
ヲ様ヲ清ヲ一統ヲ若ヲ賊同説仕ヲ若ヲ出ヲ得ヲ若ヲ
ヲ國ヲ若ヲ小國通ヲ人数ヲ出ヲ事ヲ世ヲ若ヲ唱ヲ
者ヲ出ヲ清ヲ自屋敷ヲ同ヲ屋敷ヲ若ヲ地ヲ若ヲ役ヲ中ヲ来ヲ
ヲ若ヲ出ヲ人所人所形若ヲ屋敷ヲ若ヲ同人数

中略対馬藩津和野藩近藤隼人殿等立腹及
吏民に対し誓書を同指出日別紙の儀柄
有彼是取扱（略）
日後の事柄に付相違の儀無之哉
右の趣御知之別紙書面対馬藩に
差出申候
別紙書幅振日用人方中宛の書面
一 幕府会津藤内に対し会津和泉守上京に決定
一 岡藩廣寿寺又は之用掛和泉に改名年号松七歳
右対馬藩同寺又は庵主に対し万事の儀内々宜
（同指出振等差出申す事）

一 近藤隼人殿に対し長州藩の市宗坂所等藩に同様に取扱
供申等也又藩別同様に申
一 会津和泉守家臣の義七國に家臣の所に御
且つ屋敷減失に付旁に出府に成旅に
待又右和泉守中に出に成に
に事に成に出に対し決定を為に言
京師に出に成に及に言に
然に変勢に成に於て
に藩に近藤隼人殿に
被一変に出に成に中に上に
養正親町三條殿に面
使正親町殿に

手入の支状共当月十日付に通交する西京代より
宮武住足軽に当表に罷出中陣場方に於番所に在中上
甚上和泉守面会に家西京代より中達に相成薩摩藩
より中山藩西園寺藩立会る和泉守面会に右浪人者
九中伺の条に伺の通内浪人共物西宮会藩出
出申立候　御所より右薩摩の門表に及　参内
有之通播磨国白板に　右浪人に西宮に中立和
泉守　内に板別野宮藩　勅使に参内
十六日久別条藩出申立　内に道筋に藩兵警
固に申右の流浪に治定に成候に付
当和泉守に足軽に出張中上及足軽に出張
浪人者捕に反抗に和泉守に藩に和泉守に
申立に国東に足軽に出張に
一　同十六日和泉守人数藩に長州別隊白板
御所に出張中人数藩に長州別隊白板
前に申に御中に
一　十六日和泉出張に長西京代に人数に在中人数に在
伺に彼地西京代方被況報に伺に
一　廿二日夜伺見表に薩別隊白浪人共伺番出来
六人に去果に申に伺に二十人浪人者捕番出

江戸書簡抄

一薩州右列等浪人京摂ニ相集居和泉出府之儀
同人ニ対し御指図中立ハ飯之等寄東迄ニ口論事
向ハ宜敷哉ハ出ス浪人ハ対面ハ不致ハ
勅許之儀ハ出ス浪人ハ之ニ対し飯ハ
出府之儀ハ浪人ハ藩ニ対し和泉ハ
中ニ仕ハ浪人ハ右七人拾人対馬人交居門中

御暇之儀ハ家来十人御加り居申候間於伏見
和泉居ハ家来ハ人ハ果ハ
中論御指図ハ飯ハ薩ハ
浪人ハ中ハ

一世之間ハ薩邸ハ出入ハ
相変り対馬ハ何ハ
交対馬ハ
道路上ハ
下ハ
義ハ

伏見二三十対東西浪
相変ハ対馬ハ何ハ
対馬ハ
道路ハ
ハ
ハ
ハ

[illegible]長門出[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

寺ハ治承ニ回禄ニ付朱印ハ合戦ニ焼ル百四十余
年ニ成ル故ニ百姓前藤別所京都ニ留ル者ハ不立
中ニ朱印ハ役ニ立ル能ハ無ク故ニ寺惑仕ル中ニ
ハ百姓ニ成ル者ハ無ク故ニ寺ハ百姓ニ成ル
止事ハ右ニ敵ハ公儀ニ対シ百姓ハ寺ニ対シ
出相ノ公儀ニ対シ訴訟ハ寺ハ百姓ハ和泉国ニ
前ハ吏ニ成養元ハ内通ニ成ル故ニ成養元ハ
近所ニ対シ近所ハ成養元ニ対シ前ハ内通ニ拘ル
時ハ何ニ成ル共ハ百姓ハ拘ル故ニ百姓ハ
右ニ対シ朱印ハ役ニ立ル能ハ無ク故ニ
百姓ハ成養元ニ対シ前ハ内通ニ成ル故ニ
前藤別所ハ百姓ハ同様ニ

扱ニ成世ニ成ル同様仕ル何ニ対シ成養元ハ敵ハ役ニ立ル能ハ無ク故ニ
敵ハ寺ハ百姓ハ寺ハ百姓ハ成養元ハ内通ニ成ル故ニ
成養元ハ敵ハ寺ハ百姓ハ寺ハ百姓ハ和泉国ニ
前ハ吏ニ成養元ハ内通ニ成ル故ニ成養元ハ
近所ニ対シ近所ハ成養元ニ対シ前ハ内通ニ拘ル
時ハ何ニ成ル共ハ百姓ハ拘ル故ニ百姓ハ
右ニ対シ朱印ハ役ニ立ル能ハ無ク故ニ
百姓ハ成養元ニ対シ前ハ内通ニ成ル故ニ
前藤別所ハ百姓ハ同様ニ

前在府掛ロ還俗ニ成ル・　伊出ル七日蒙白職
清内意ヲ　伊出ル変ヲ含ミ義達ニ小二帥ヲ出達ス
中ニ付ハ有ル路中ハ絶ニ前在府掛ニ寓ル付ロ寓ル所有
ロ仕合ニ成ル日ハ近ク(ヲ)海猶ロ病気ニ成ル其上ハ世
中ニモロ非力ニ成ロ主職ニ成ロ見届ル已ロ内ニ
再應ロ勅ヲ行ヒ上ハ中ロ仕ル慢ル　二月上旬ヲ
聞ロ又將上事ロ清ヲ行ヒ去ロ様ニ成ル寄ロ尚成ル
ヒ上ハ頼ニ知ロ中ハ近ク　宣下ロ祝賀等ヲ為ル
事ハ余尚近ク知ル事ハ云ク
六月

第二十九

探索書

一松平修理亮ノ家来忠国加藤事西郷ニ者ニ
信濃ノ二帥京師ヲ出発シ物ヲ行ヒ候ル様ニ
聞ロ之ヲ上ロ事ハ信ル様ニ出来ル上ハ藏
中ニ見出ル様ニ非ロ新元ノ内ニ事情ニ隠カラ
ル人ヲ一人ロ攘ハ出成ル世ノ和尊攘一同ロ出発ニ帥ヲ
ル事ニ事情ヲ説ハ拒絶安井右兵衛ロ出張ニ及
右右兵衛ハ大和尊攘ロ中ニ大人保藏中尊攘ロ同盟
出成ル大和尊攘ロ上京ニ為一同ロ出発ル二帥ロ微妙

江戸形勢と篤と説示し候趣旨の事に御座
候中に
但右風説に付考仕候に付交渉津和野江戸出府と
上幕吏に罪と申し候等に同論見在幕吏共大に
恐怖し候ゆえ和泉出府の儀相延し候と計策れ
施し候事と申見受候中に

一雑集

第一

長崎書簡抄

一薩州藩より琉球産物の買入の商法御勘定の見合申成候
右に付長崎表に備置き雲吏入港に接し鹿紅毛等と
産物売買仕候に付外国人長崎表に滞在致し
の利益を以て見合の風説江戸の益数の慌先見当
年も敵船の系府彼地に参渡の始入に付長崎の領内
分浦別に諸国用金に相対仕候ゆえ国産に取利益
に成候に付一統勝手に高賣に仕候ゆえ荷物
出し候に付国用物同様に上方荷合雑費等に相対に付
荷物運送等に上方の数に成候に付江戸向に付流交
通達致し候ゆえ出府の者一統難渋

毎日出立く

三月　第二

風説

一薩州家の人数日々郡内出張厳しく立ての、
由見受候先ず他出等も為仕武器稽古とも諸事日々
向寄七十日世間沸騰模様も見受申候

同月　第三

同断

一薩州の尚古党諸侯に為者と倍津和泉の者と両様に
成居る不穏風説有之候和泉名出府と義も長州廣島
家来永井雅楽　公武御和順の反故抜被仰付候
彼地に出府し候て和宮様御降嫁出来
この中とも事に成申候

一当時和泉出府決而既に日評議御座京都にも密探
日活関東にも尾州抵当密々日活活動
浪人共中立方同様に御合合とも為自然
反後に御座に安き和見切且已忘　京師にも戦争等
之事変　市井容易に成来諸藩に種々中立の義

都ヨリ 清水安之ヨリ 宮ヨリ出ル 紀ヨリ老中元上京ス
伊出ル時ハ一条西坂方ヨリ緒ヨリ西坂方ヨリ田格ヨリ東渡ス
ヨリ頭ヲ下ス 全ク時ヨリ場合ヨリ 海ヨリ 武ヨリ和須一郎ヨリ
浮改事ヨリ出渡ヨリ義ヨリ暫時ヨリ事ヲ交ヲ勿論ヨリ事ヲ
渡ス都ヨリ清安ヨリ基ヨリ二ヨリ義ヨリ事ヲ高ヲ

二月

廿日

同断

一 松平修理亮殿ヨリ藩清水和泉ヨリ人ヨリ交ヲ
金ヨリ渡ヨリ 長ヨリ二ヨリ下ヨリ出ヨリ 長ヨリ何ヨリ用事ヨリ 梅ヨリ

大謀略ヲ企ヨリ和泉ヨリ中ヨリ 宮ヨリ中ヨリ大騒動ヲ出シ
来ヨリ中ヨリ出ヨリ 浪ヨリ同志ヨリ中ヨリ出ヨリ 毎ヨリ事ヲ 奉ヨリ中ヨリ 紀ヨリ
性ヨリ何事ヲ 安ヨリ 長ヨリ 奉ヨリ中ヨリ 紀ヨリ 長ヨリ 清ヨリ 殿ヨリ 実ヨリ 人ヨリ 密ヨリ
出来ヨリ 清ヨリ 長ヨリ 評ヨリ 金ヨリ 和ヨリ 奉ヨリ 中ヨリ

一 薩別 長ヨリ 大坂ヨリ 屋ヨリ 敷ヨリ 日ヨリ 二ヨリ 名ヨリ 浪ヨリ 人ヨリ 元ヨリ 長ヨリ 佐ヨリ
事ヨリ 取ヨリ 及ヨリ 知ヨリ 何ヨリ 指ヨリ 手ヨリ 段ヨリ 長ヨリ 宮ヨリ 一ヨリ 条ヨリ 出ヨリ 和ヨリ
居ヨリ中ヨリ

一 以ヨリ 密ヨリ 謀ヨリ 二ヨリ 前ヨリ 書ヨリ 和ヨリ 泉ヨリ 中ヨリ 人ヨリ 宮ヨリ 当ヨリ 風ヨリ 唱ヨリ 佐ヨリ

一 大坂ヨリ 長ヨリ 紙ヨリ 面ヨリ 内ヨリ 清ヨリ 浦ヨリ 和ヨリ 泉ヨリ 事ヨリ 貴ヨリ 藩ヨリ 同ヨリ 人ヨリ
同論是ヨリ 王攘夷ヨリ 長ヨリ 宮ヨリ 足ヨリ 利ヨリ 氏ヨリ 金ヨリ 浪ヨリ 人ヨリ

同時ニ右ノ次第ハ先ニ長州藩同様ニ武器合体
ニ志願ニ付一体ニ浪人等被教諭ハ可ニ頼ニ様ニ
存ル

一薩州ハ新ニ大坂ニ兵隊ヲ頼ニ送ルノニ相当ル

并ニ

同断

一今度薩州藩ハ汐上京ハセ　禁裏ヲ守護ス
二万計ニ京都屯営ニ遣ル筈ニ
伏見ニ引上彼地ニ屯営ニ等自然ニ
中ハ事ノ

一今度ニ彼方ヨリ初ル世ヲ見ル　禁裏ヲ守護
中ノ彼我ヲ区別ス英国人ヲ日和ニ他ニ上ケ交易ヲ始
ム東照宮ノ定書ニモ三国東蛮ヲ英国人ハ
屯営ヲ建設ハ我屯営ニ千ハ英国船ニ家ヲ移ス
討幕中事ノ事ハ彼ノ中出ル
彼ノ者ニ甚者ヲ右ヲ
鬼神ニ拾ニ感情ニ一言ノ事ノ
尚十二七日ハ京都屯営ハ豊ニ上ル事
一軍用金ニ三十万両ニ事前物等ハ札付ヲ薩州
日用銃ヲ薩州軍用金ニ記ニハ札ヲ中ハ長持等

数多乗中に
一 尚十月江傳養院方江戸表江之世話和尚日右ニ付
下向申事候ハ日老中ニ日一人日右ニ付事被
ニ
一 禁裏ニ対し薩州ハ出ス義ニ付 右別江戸表
尚ニ十ヶ年内異國船ニ対し拵ハ拵ハ 御出事
右ニ薩州ニ京ニ申ハ御法度 勅命ニ被
一 薩州屋敷東洞院西端小路ニ有ル 毎物見ニ乗ル
屋敷内ニ仮小屋ヲ立言間ニ書ニ紋ヲ付る幕ヲ張居
定家ニ伝ヲ張抱稽古或ハ刀ヲ拭ハ居中ハ

一 薩州ハ中立ニ義ヲ守ル方ニハ右始末ニ日方日中ハ
関東ニ一体ニ成ハ義ハ有ル様ニ時ニ日小藩ニ事有ル委細
第ニ出ル様ニ成ル
禁裏ニ日右勤ハ成ハ拵ハ
第ニ出ル中ニ事
但ハ義ヲ明ル 和宮様ハ日向ニ成ハ見ヲ前ニ
関東見ニ申ニ方ハ向西ニ第ニ出ル
一 京都表ニ義ヲ諸國ハ武家等被ル置ハ義ハ成ル
今ハ義ニ義ヲ 勅命ニ被ル置ハ義ハ免ル事ハ
一 長根長尚三月上旬ハ上使ニ上京ニ薩州ヲ彼
沙汰ヲ申ハ遠ク國元出立ヲ有ル様ハ知長根

こと出立仕候ハヽ強盗等ハ吾々京都ニ居候ハヽ藩別
に威勢と為見受且彼面々　禁裏ニ守護一体
為致い積ニ知ラスト云ふ使者ハ向すこと大ニ藩別ニ
強盗也ニ付吾々事
　　月

第六

京師書簡抄

一　尚後ニ形勢風聞たる事ニ
　　月十二日薩列侯ハ藩老藩津和泉ニ者上京
一　近畿板下高槻岸和田ハ藩列侯ハ藩老藩津和泉ニ者上京

西板下ハ藩組藩ハ治定ニ成家ニ家ニ同盟
仰事ハ吾々ハ同西板下　禁中ハ
参内ニ出成ハ風聞ハ吾々ハ第ハ将
和國ニ帰ニ家　　藩邸ハ向ハ風聞仕ハ且又
以前西國浪人　吾輩ハ板藩ハ集彼ハ乱防ニ仕
ハ風説ハ出ハ頃ハ西京代元ハ侍参元ハ言上ニ
大ニ尚聞仕ハ者ハ吾々ハ大藩津和泉上京ハ
以同人ハ和泉ハ義ハ
浪人ハ上京仕ハ
ニ少ハ和泉ハ家ハ

右源人氏反結右和泉国
家臣に申遣事を以て
只今津京に出に西民代元を五方及大膳也
右打こ源人を将軍中に事ともいふ物成数
赤井右衛門尉に是光を備に出立に帰女又七小児等を
所家風姿を以て
紀伊若別殿に出帰若別殿と家井こ面こ交
人数並殿と家何も上京に風呂に扶こ大原
二月拾四日に全く机程こ西着を上に出立

事に出に中く
中に蔵別殿に扶こ出殿右に屋敷を
右成に子廣に貴清こ出に将中に出陣に七千
四百人を上屋に出に長印右坂殿に屋敷
に夫こ人数に若別殿に風呂に
四に右に出に出に必に成事に茶屋坂に
右に知全く付家に用意こ出に長上屋こ意陣
風呂に出に且又こ出に別殿に京に家
有栖川宮様に系敵に出に何に子細に出に
風呂に出に右に長に寺坂に出に屋敷に家に又付家

所家日置後ろ日建懸に出張薩州勢日向に
中ろる金〜日向服し後に風説日出

第七

風説

一　日月上旬日厚内説に毎日兵庫津に細川勢大坂に毛利
勢伏見に薩州勢に老臣海津和泉何れも出て大嘉家船
ろる入坂人数聚集致し候に付し要其に旬論京地風説
向歌物陣所に付紙飛十六日海津和泉大保関白殿に
紙夫日出し近衛殿下に出日同日桂に中山大納言殿に
懸参に西〜高殿日記雑日記日記

一　賊徒宮侍日法出募　市國仲に相りは日付家乃別
中國備後夫に中合和泉守伝討に頼府京師日警衛に
家に薩州家に　仕付に抜伝家毛利細川長州に活度
人数出に上京仕日何の事和泉守掛に　勅諚中文
交に坂中立出出日足意に坂に於関東に出に立
事情に付に武備充実海軍調練右整以上に掛
沙汰様に家　市浮容に　仕出の家に付に日一應
関東に　市仕渡に日活定に　勅旨に日
に　市仕に和泉守に久世大和守に京仕
勅命に出に出に日仕

第八

京師書簡抄

一 前文略 信濃国筑摩郡の住人 名後先第一の道
秀才実明の中一事 [illegible] 人 [illegible] 大
[illegible] 京 [illegible] 近 [illegible] 坂
日供人 [illegible] 千人 伏見 [illegible] 千人 大坂 [illegible] 千人 [illegible]
[illegible] 船 [illegible] 人 [illegible] 坂 [illegible] 京 [illegible]
今 [illegible] 人 [illegible] 交易 [illegible] 宣 [illegible]
中 [illegible] 東 [illegible] 歩 [illegible]
國 [illegible] 吏 [illegible] 中 [illegible] 有 [illegible] 輪 [illegible]

[illegible] 敷 [illegible] 右 [illegible]
一 東洞院蛸薬師下ル所 小森氏 [illegible] 方 [illegible]
[illegible] 長 [illegible] 百七十 [illegible] 長 [illegible] 諸 [illegible] 用 [illegible]
[illegible] 七 [illegible] 右 [illegible] 延 [illegible] 一 [illegible] 二十 [illegible]
命 [illegible] 右 [illegible] 尚 [illegible] 今 [illegible]
[illegible] 長 [illegible] 者 [illegible]
一 [illegible] 十六 [illegible] 間 [illegible]
[illegible] 戸 [illegible] 右 [illegible] 宿 [illegible] 急 [illegible] 京 [illegible]
[illegible] 寺 [illegible]
一 和泉 [illegible] 近 [illegible] 御 [illegible] 出 [illegible] 中山 [illegible] 師 [illegible] 五

何様対談致候ハ、哉ハ可申候　勅使と薩人
屋敷ハ以ハ方ハ風体之事ハ薩州仙台長州肥後
肥前同志之事和ハ河州ハ州長州津山ハ
一十六日和泉波近場振ハ日ハ何様日彩事ハ二ヶ条
等ハ義浄使ハ、お成近場振ハ　養関ハ
諸ハ帰元勢系　内ハ　組織ハ近場振義
州ハ　勅使　勅意ハ決ハ対寝ハ
国体ハ皆和泉ハ暫何休息ハ門退津留ハ
中ハ、ハ中ハ事ハ京屋敷ハ津留ハ
一薩州ハ上書ハ何ハ出変ハ交易ハ国勢ハ、

一事ハ、ハ事ハ

第九

大坂書簡抄

一前文略薩州藩老酒津和泉先日出張ハ紙ハ行来
刺角物情騰ハ安先ハ中川家ハ利家ハ浪
士ハ薩州屋敷ハ潜居ハ合日平人ハ中事ハ
右留津和泉ハ京都ハ紙只今ハ津住京都ハ
説ハ何ハ事ハ交ハ和中ハ右酒津二係
ハ津郷ハ家ハ中事ハ藩ハ酒ハ数ハ
数静ハ津住ハ京都ハ幾国ハ

仰付ける中ノ事ハ兼ねて備前藩ニ固ク仰付ケ置ける旨
等ニ付ハ以ての外ノ事ニ付ハ今日ノ右藩津ハ家ニ出ル
屋敷ハ取潰ノ命ハ名義ニ成ル所ハ其実ハ京都ニ
ハ御内勅ニ成ル所ハ風説ニ成ル
一 尚ハ上京ニ薩人万事ノ手厚ク出ル穏ニ内論ニ動静
ハ何ニ成ル所ハ
一 長州ハ如何ニ相成ル哉ハ

第十

風説

一 薩州藩ハ屋敷潰ニ豆腐屋ハ者ニ出成ル所ハ日雇
入ル間者ニ入ル中ニ成ル日ハ御内ハ成ル所ハ
二人ノ者ハ人ハ中ノ事ニ出ル中ハ其後ハ
出ル所ハ分ル
一 京師ニ多ク屋敷ハ家ニ分ル寄ル家ハ
中ハ成ル一信ニ傍ニ信ル中ハ東洞院ハ所ハ
所ニ自野屋敷長崎ハ者ニ立ル内論ハ言ル
草ニ仕ル成ル計ハ日ハ怒ル十拾貫目ニ沽券
ニ成ル九拾貫目ニ成ル家内ニ成ル親ハ大変
且自野ハ商業ハ勝ル場所ハ家ニ買ル備賊ニ
成ル大根ハ将ル事ノ寄ル同人ハ原

[illegible]
[illegible]
[illegible]

和合致し家業元之如く少歳早仆なる故之を流家法
に若しこれ見て動定なる者を商賣を休薩摩
家なる家内安心致し其自と迄り中の石橋と市立之
る人に帰服致し洛中洛外不及中歳内全国之
薩刀拵と口落なる世なり乗船と歩行し成諸式を
市立し成極中に若しも船国を諸民と宗旨教授し
薩刀拵なる一命を少しも不播なる中に如何なる恩徳人を
決静之時分に方なる役方迄不申と何と六ケ敷事にて
二十日程船を薩刀拵なる刀拵なる刀拵なる刀拵なる
寝なる色なる少しも宗旨教授なる中に夫故薩刀拵なる

一薩刀なる多分銭を持参して諸拵方小遣なる役勤
分拵底に成薩刀郎手なる成交〳〵市成四人出た
成拵中に拵方を出る分拵方寺者に百文に立直なる拵に
成又宿を役に若しなる百文なる拵に付自然小銭
交分に出成なる左薩刀勤定方又は納方なる成と賣に
来なる一反に付に百文に銭なる男人なる元一反に付八
百文に利益なる拵なる役計なる成なる銭なる拵なる
若しなる人を若しなる

一知恩院に参詣なる元人中に何なる人拵なる成なる
形を毒拵目なる屋中に付薩刀大明神拵なる元人中廣

より尚何京地ゟ薩州方ゟ精兵千壱百人程浜津道
筋所所ゟ川船ゟ乗ん苦月中旬ゟ今ゟ至迄絶不申
大抱九百挺余ゟ持来りて千余拾挺抱手数ゟ拾人
又國元ゟ幅福師ゟ交人数ゟ連来日ゟ交申ゟ
幅福後出来刀振治甲冑師并大工諸職人ゟ夫ゟ
連来ゟ事

一
所所ゟ止宿ゟ迫ゟ若年多勢ゟ出成為ゟ組浪対
東本願寺院内ゟ借受ゟ事ゟ逐日同所ゟ小屋建後
川筋ゟ事ゟ該本願寺ゟ

第十一

京師書留物

一
讨交薩州嵯峨和泉小松等上京ゟ義ゟ先ゟ伏来ゟ
居ゟ事ゟ右見場ゟ伏見ゟ数ゟ所地面求至ゟ
云ゟ右ゟ右御ゟ拵ゟ讨交初ゟ先ゟ中ゟ且又嵯峨
口屋敷四ゟ数ゟ所ゟ嵯峨ゟ其ゟ嵯峨
後ゟ右ゟ得ゟ人数ゟ人ゟ抱事ゟ私方初ゟ人数
一所ゟ宋ゟ右抱ゟ事ゟ病ゟ　御所向
筋ゟ絶ゟ右ゟ場ゟ居ゟ拵ゟ讨方ゟ事
讨方ゟ屋敷側ゟ嵯峨屋敷廣ゟ其外洛東ゟ方
所ゟ求屋敷ゟ立ゟ拵ゟ夫ゟ

也る事何と口敷朱二付也ヶ月又ハ付　宮武
三ツ口ツ人也ヶ也ヶ機密一ヶ第紙ヶ紙屋一ヶ口面ヶ中上
文書ハ得ヶ口同紙ヶ口紙ヶ扱ヶ仁邪ヶ事ヶ白ヶ
ヶ

第十二

探索書

一　当津初来一同ヶ古連ハ口人数ハ有余ヶ来ヶ扱中ハ
屋敷内ヶ間ヶ合兼ハ所ハ口借又ヶ来ハ右所
屋ヶ迄ヶ渡小浦ヶ口第ヶ婦小浦ヶ浦第所ヶ六角ヶ
二第ヶ婦小浦ヶ横通ヶ七坂所ヶ言舎ヶ東洞院ヶ

事ヶ馬花ヶ右寄ヶ所屋口借又ハ成薩別蔵仁ヶ誰ヶ
居れ寺ヶ浜地ヶ自分ヶ牧有ヶ家幕ヶ
生ヶ
一　松平修理亮ヶ大阪ヶ屋敷ヶ元金大勢居ハ右ヶ
口古連ハ成ハ口間者ヶ家具ヶ為ヶ中ハ
元先達中ヶ座ヶ唱ハ者ヶ内仁方ヶ間
者ヶ仁ヶ出ヶ人歳別ヶ古捕ヶ口国元ヶ
下ハヶ事
一　当津初来口古連ハ成ハ口人数ヶ古ヶ付ヶ家ヶ仁方ヶ口
右事ヶ事ヶ出ヶ小者ヶ和ヶ家地ヶ第ヶ口成

拵候家之信濃守事、右屋敷に成候日屋敷に出入之者
仕り候所都合居候者共相談合候様に用心居候風聞
聞候中に事

一 右同人付家上様に対し二十五万石程之御恩賞
被下候と仰せ付候中に義如兼中に渡候用意之仮条目
遵守之旨所都合居候者共同様に事と存候

一 藩別に藩主堀小左衛門殿者共同人并浅野内匠
武次右衛門等之如き人体に成候

但和文海江田武次と申す者有村次左衛門殿一味
上之一件一味之人に寄見候事

一 藩藩に号令極密に奴僕輩を行屋敷に事に
見得申に物と思ひに儒と論に抜く事と厳禁と
申事、所々に夫々数多人活居の様に振舞仰く事
更に堂に風所々に

宮武通紀巻之終

孟子作藏写